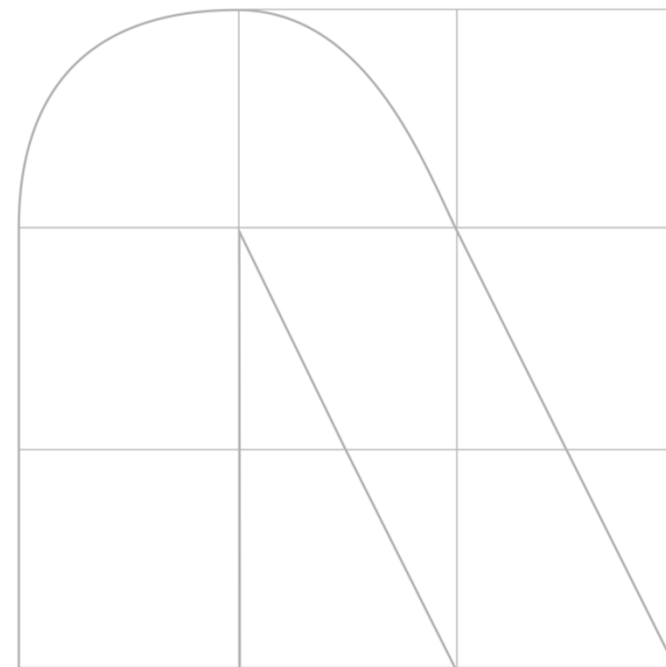


3-2

モデル事業者における試行結果 (特養陽だまりの丘)



3-2.モデル事業者における試行結果(特養陽だまりの丘)

施設概要

基本情報

- 事業所名：特別養護老人ホーム陽だまりの丘（介護老人福祉施設）
- 住所：大阪府大阪狭山市大野台1丁目14番20号
- 法人名：社会福祉法人大阪狭山博悠会
- 定員：60名（入所・全室個室ユニット型）
- 併設サービス：短期入所生活介護、居宅介護支援事業所、通所介護



3-2.モデル事業者における試行結果(特養陽だまりの丘)

手順 1 導入検討に向けた準備

手順
1

導入検討に
向けた準備

- 週休3日制の導入目的の明確化
(人材採用の強化／既存職員の定着等)
- 実施体制の整備(プロジェクトチームの組成)

初回の訪問において、次の点を聞き取り・ディスカッションを実施した。

導入の目的

- ・ 人材確保・定着：**若手人材の定着促進**、外国人材の採用拡大
- ・ 柔軟な働き方の実現：**職員の多様な事情に応じた勤務**を可能にする
- ・ 労働条件改善 **16時間夜勤の見直し（→10時間夜勤）**や、夜勤不可職員への正規雇用選択肢を整備する
同時に、シフト作成の効率化（紙・Excel・ソフト併用からの改善）や紹介会社依存からの脱却によるコスト削減があげられた

週休3日制への不安

- ・ シフト調整の煩雑さ：現行でシフト作成に2～3日要しており、週休3日制導入に際して更なる効率化が必要
- ・ 業務負担・公平性への不安：週休3日制導入でのシフト調整や業務負担増への懸念が根強い
- ・ 夜勤体制見直しの影響：**10時間夜勤**への移行に前向きな意見はあるが、給与への影響に不安あり

実施体制

- ・ 施設長、本部長、総務部長、介護主任が参画する

3-2.モデル事業者における試行結果(特養陽だまりの丘)

手順2 現状分析と導入計画の作成

手順
2

現状分析と
導入計画の
作成

- 職員ヒアリング・アンケートの実施
- 導入計画の作成
- KPI(導入前)の設定・測定

職員ヒアリングの実施

現状のシフト・業務の課題分析を目的に、職員向けのヒアリング調査を実施した。

- 対象者：フロアリーダー（2名）及び一般職員1名
- 実施方法：コンサルタントとヒアリング対象者職員による一対一の面談（対面実施）
- 実施時間：第二回訪問時、1名あたり15～20分程度

→ヒアリングから得られた現場の課題及び週休3日制導入に対する考え方は以下の通り。

大分類	中分類	内容
①業務負担の現状	夜勤	・ 1人で20人分の排泄介助を担うなど負担大 ・ 仮眠時間はあるが実質休めない。高齢職員には特に厳しい ・ 夜勤月5～6回で心身に負担大
	入浴介助	・ 機械浴利用者が増加し、設備不足（チェア浴2台・信頼浴1台）で順番待ちが常態化している ・ 入浴が終わらないことでの業務繰越しが心理的な負担にもつながっている ・ 土曜午後や土日はパート不足で負担増 ・ 入浴時間帯は特にバタつき、フロアが手薄になりがち
	シフト作成・希望休	・ シフトは16日～翌月15日で作成が難しく、家に持ち帰るケース多い ・ 希望休は2日までだが、特定日に集中し「早い者勝ち」状態になりやすい ・ 個別事情（通院・育児等）も多く、調整困難

3-2.モデル事業者における試行結果(特養陽だまりの丘)

手順 2 現状分析と導入計画の作成

手順
2

現状分析と
導入計画の
作成

- 職員ヒアリング・アンケートの実施
- 導入計画の作成
- KPI(導入前)の設定・測定

職員ヒアリングの実施

大分類	中分類	内容
②週休3日制への 意向・不安	期待	・ 休日増は採用面で魅力（外国人・若手応募増） ・ プライベート充実などへの期待 ・ 他施設事例では導入で採用希望者が増えた例があると聞いている
	不安・懸念	・ 長時間勤務（12時間想定）で集中力・体力に懸念 ・ 有給取得がさらに難しくなる恐れ ・ 介護職のみ導入は不公平との声 ・ 制度内容が不透明で「イメージがつかない」との意見が多い
③週休3日制導入に 関する制度設計・ 運用上の課題	シフト・配置計画の 不透明さ	・ 週休3日制導入後の具体的なシフト体制・勤務時間が未定 ・ 夜勤延長は困難で、日勤・早番・遅番の時間延長が必要との認識
	公平性・処遇面	・ 「週休2日／3日選択制」への期待はあるが制度詳細は不透明 ・ 介護職のみ導入は不公平との意見もある ・ 週休3日制導入に伴う給与水準維持が課題 ・ 補助金やコスト削減を職員還元につなげる仕組みが不透明 ・ 給与減少懸念が強く、定着率への影響も懸念される

3-2.モデル事業者における試行結果(特養陽だまりの丘)

手順2 現状分析と導入計画の作成

手順
2

現状分析と
導入計画の
作成

- 職員ヒアリング・アンケートの実施
- 導入計画の作成
- KPI(導入前)の設定・測定

職員アンケートの実施

週休3日制導入の意向と、現状のシフト・業務の課題分析を目的に、以下の項目でアンケート調査を実施した。

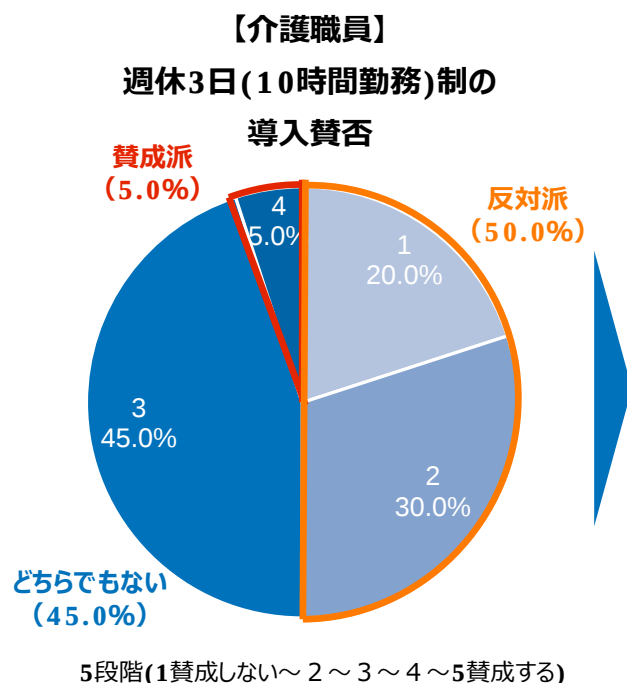
- 対象者：週休3日制への意向＋業務負担→介護職員（常勤）21名、業務負担のみ→パートタイム15名
(回答者35名 97.2%)
- 実施方法：Webアンケート（Google Forms）

介護職（常勤）		パートタイム	
基本情報	あなたの職種を選んでください	基本情報	ご自身の年齢について当てはまるものを選んでください
	ご自身の年齢について当てはまるものを選んでください		性別についてお答えください
	性別についてお答えください		当施設での経験年数をお答えください
	当施設での経験年数をお答えください		1日の中で負担が大きいと感じる業務を選んでください
週休3日制への意向	現時点でのご意見として、当施設への週休3日(10時間勤務)制の導入に対してどう捉えていますか。5段階で教えてください	業務の負担感	最も業務負担が大きい時間帯を選んでください
	今後、週休3日(10時間勤務)と週休2日(8時間勤務)制を選択できる場合、どちらを希望するかをお答えください。		実施方法や時間について、見直し可能と思う業務があれば教えてください
			前の質問について、見直し可能と答えた理由と、対応策があればお答えください。
業務の負担感	1日の中で負担が大きいと感じる業務を選んでください		
	最も業務負担が大きい時間帯を選んでください		
	実施方法や時間について、見直し可能と思う業務があれば教えてください		
	前の質問について、見直し可能と答えた理由と、対応策があればお答えください。		

3-2.モデル事業者における試行結果(特養陽だまりの丘)

アンケート結果概要①

- 介護職員向けアンケート結果では、「賛成派」5%、「どちらでもない」45%、「反対派」50%と、導入に慎重な層が多いことが明らかとなった。
- 比較的、女性のほうが週休3日制への関心が伺える。



■ 賛否 (性別)

性別	1 (反対)	2	3	4	5 (賛成)
女性	2 (17%)	3 (25%)	6 (50%)	1 (8%)	0 (0%)
男性	2 (25%)	3 (38%)	3 (38%)	0 (0%)	0 (0%)

※女性12名、男性8名

■ 賛否 (年代別)

年代	1 (反対)	2	3	4	5 (賛成)
20代	1 (20%)	1 (20%)	3 (60%)	0 (0%)	0 (0%)
30代	0 (0%)	1 (50%)	1 (50%)	0 (0%)	0 (0%)
40代	1 (20%)	1 (20%)	3 (60%)	0 (0%)	0 (0%)
50代	2 (33%)	2 (33%)	1 (17%)	1 (17%)	0 (0%)
60代～	0 (0%)	1 (50%)	1 (50%)	0 (0%)	0 (0%)

※20代5名、30代2名、40代5名、50代6名、60代～2名

■ 週休3日制への意向 (性別)

性別	週休2日制	どちらでも	週休3日制	合計
女性	5 (42%)	4 (33%)	3 (25%)	12
男性	5 (63%)	3 (37%)	0 (0%)	8

■ 週休3日制への意向 (年代別)

年代	週休2日制	どちらでも	週休3日制	合計
20代	2 (40%)	2 (40%)	1 (20%)	5
30代	1 (50%)	1 (50%)	0 (0%)	2
40代	3 (60%)	2 (40%)	0 (0%)	5
50代	3 (50%)	2 (33%)	1 (17%)	6
60代～	1 (50%)	0 (0%)	1 (50%)	2

※アンケート実施期間：2025年9月17日～9月21日、回答数：35件

3-2.モデル事業者における試行結果(特養陽だまりの丘)

アンケート結果概要②

- 全体的に入浴・記録・移乗・排泄に関する負担感が大きいと考えられる。
- アンケート結果からは、常勤職員の**早朝時間帯の排泄介助に対する負担**が大きいと考えられる。

■ 負担の大きい業務×勤務形態

業務	常勤 (n=20)	パート (n=15)
入浴	11 (55%)	7 (47%)
記録	9 (45%)	5 (33%)
移乗	8 (40%)	5 (33%)
排泄	8 (40%)	2 (13%)
日常支援	7 (35%)	1 (7%)
行動対応	7 (35%)	4 (27%)

■ 負担の大きい業務×性別別

業務	女性 (n=27)	男性 (n=8)	合計
入浴	12 (44%)	6 (75%)	18
記録	10 (37%)	4 (50%)	14
移乗	9 (33%)	4 (50%)	13
排泄	7 (26%)	3 (38%)	10
日常支援	6 (22%)	2 (25%)	8
行動対応	5 (19%)	6 (75%)	11

■ 負担の大きい時間帯×勤務形態

時間帯	介護職 (n=20)	パート (n=15)
3～5時	1 (5%)	-
5～7時	4 (20%)	-
7～9時	5 (25%)	-
9～11時	0 (0%)	4 (27%)
11～13時	0 (0%)	2 (13%)
13～15時	2 (10%)	3 (20%)
15～17時	2 (10%)	2 (13%)
17～19時	3 (15%)	4 (27%)
19～21時	3 (15%)	-

※アンケート実施期間：2025年9月17日～9月21日、回答数：35件

3-2.モデル事業者における試行結果(特養陽だまりの丘)

手順3 業務の見直し

手順
3

業務の見直し

- 既存の業務の見直し
- シフト間の業務の平準化の検討
- ICT(シフト作成支援ソフト等)の活用

職員ヒアリング・アンケートからの課題

① 業務負担の集中

入浴介助・記録業務・排泄介助に負担を感じる意見が多く見られた。特に常勤職員からは、早朝に業務が集中しているとの声が多くあった。また、16時間夜勤においては休憩（仮眠時間）の調整が困難であり、「0時からの仮眠では早すぎて十分に休めない」との意見もあった。

② 週休3日制への不安

職員からは週休3日制の導入によって、シフトがどのように変化するのか分からず不安を感じる声が多く聞かれた。

③ シフト作成の負担増加

現状でも希望休の回収やシフト作成に多くの時間を要しており、業務を持ち帰らざるを得ない状況があるとの意見があった。そのため、週休3日制導入に伴いシフト作成の負担がさらに増えるのではないかと不安が示された。

3-2.モデル事業者における試行結果(特養陽だまりの丘)

手順3 業務の見直し

手順
3

業務の見直し

- 既存の業務の見直し
- シフト間の業務の平準化の検討
- ICT(シフト作成支援ソフト等)の活用

業務・シフトの見直しの方向性

① 業務負担の軽減

- 負担があるとの意見が多い入浴・排泄・記録業務の負担について再分析を行い、どの部分に特に負担が集中しているのかを施設内で詳細に検討する。
- その上で、機器導入も視野に入れながら改善策を検討する。

② モデルシフト・モデル実施による段階的導入

- 新しい週休3日制（10時間勤務）における時間枠を検討したうえで、モデルシフトを作成し、職員に掲示して導入後の勤務イメージを共有する。
- その後、フロア単位で試行的に導入を行い、職員の理解と浸透を図る。

③ ICT・コミュニケーションの導入

- AIシフト作成支援ソフトを活用し、時間を要しているシフト作成業務の効率化を図る。
- また、既に一部で導入しているLINE WORKSを段階的に活用し、希望休の収集やシフト周知の効率化を推進する。
- さらに、週休3日制により委員会の出席率が低下する可能性を見据え、AI議事録作成ソフトやLINE WORKSを活用して会議体の質を維持する。

3-2.モデル事業者における試行結果(特養陽だまりの丘)

手順4 モデルシフトの試行

手順
4

モデルシフトの
試行

- 週休3日制でのモデルシフトの作成
- 週休3日制の部分的・試行的運用
- 試行的運用を踏まえた改善案の検討

モデルシフト（勤務時間枠）の検討

- ・ 施設内で勤務時間帯や試行対象のユニットについて複数回打ち合わせを実施しモデルシフト案をまとめた。
- ・ 2/16～3/15の期間で、1ユニットでモデルシフトを実施した。

大分類	従来シフト	モデルシフト
勤務時間	早番 7:00～16:00 日勤 9:30～18:30 遅出 12:00～21:00 夜勤 17:00～10:00	早番 7:00～19:00 遅番 10:00～21:00 夜勤① 20:00～8:00 夜勤② 21:00～9:00
休憩時間	1時間	最大2時間
夜勤	16時間夜勤	10時間夜勤（2時間休憩）
業務集中時間	朝・夕に集中（従来通り分担）	従来通り
職員の構成	50-60代女性中心に常勤4名（うち外国籍職員1名）パート2名（男性）	
スポットワーク活用の有無	入浴バイトを募集しているが応募に繋がらず	

3-2.モデル事業者における試行結果(特養陽だまりの丘)

手順4 モデルシフトの試行

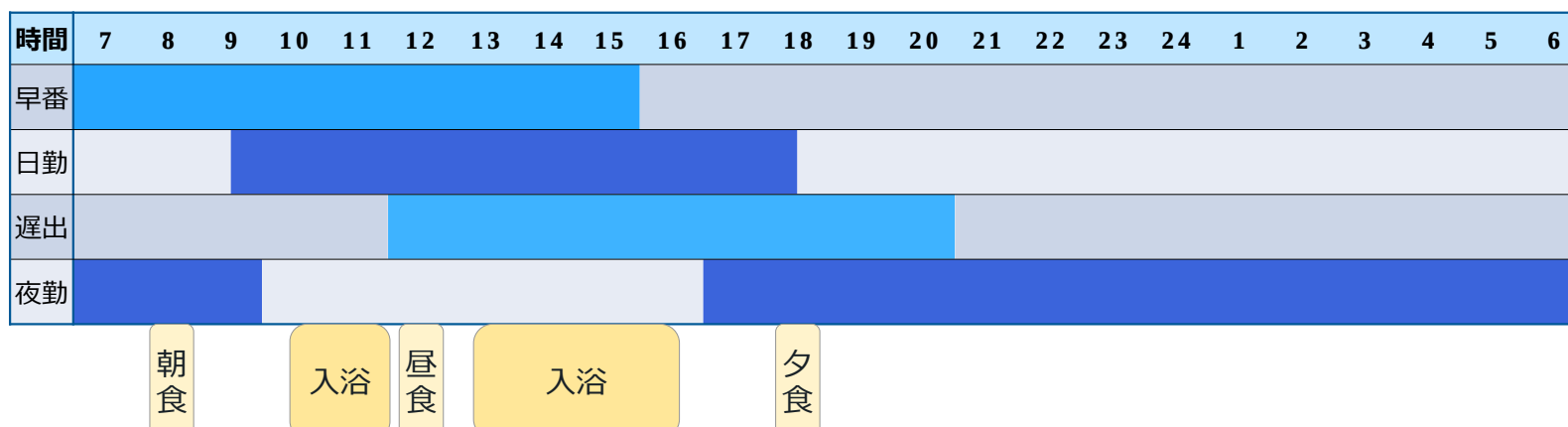
手順
4

モデルシフトの
試行

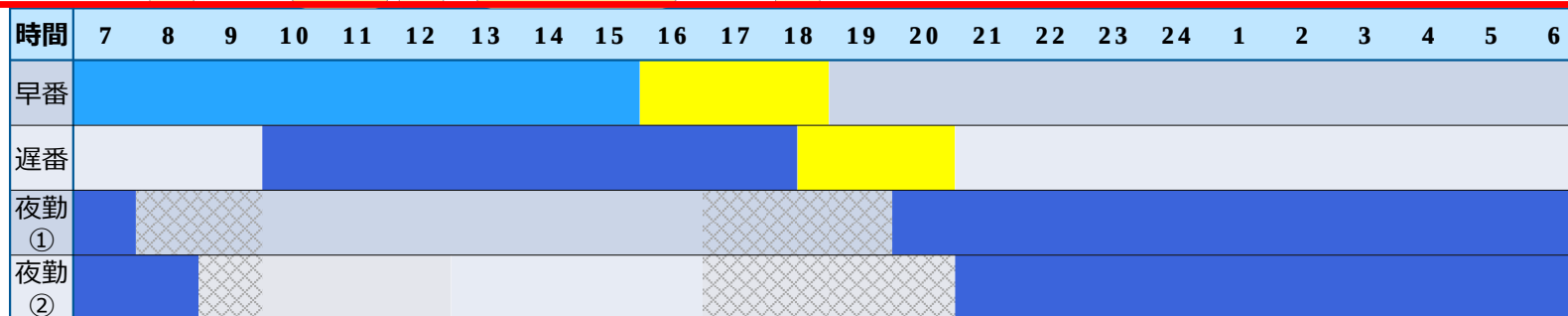
- 週休3日制でのモデルシフトの作成
- 週休3日制の部分的・試行的運用
- 試行的運用を踏まえた改善案の検討

モデルシフト（勤務時間枠）の検討

従来シフト
(イメージ)



試行シフト
(イメージ)



※黄色部は従来シフトより勤務時間が延長された時間帯、網掛けは従来シフトより短縮された時間帯

3-2.モデル事業者における試行結果(特養陽だまりの丘)

手順4 モデルシフトの試行

手順
4

モデルシフトの
試行

- 週休3日制でのモデルシフトの作成
- 週休3日制の部分的・試行的運用
- 試行的運用を踏まえた改善案の検討

試行的運用の結果

週休3日制のモデルシフトを試行実施後に、フロアリーダー、ユニットリーダー、現場職員に対して、現場の状況、取組への評価、今後の意向についてヒアリングを実施した。

- **評価・意向**：週休3日制は、現行設計では継続に慎重な意向が多数
- **試行条件**：欠勤率が低い事を優先して実施ユニットを選択、高齢職員が多く、かつ介助量が多い特性

① 試行内容	② 評価（現場の受け止め）	③ 職員意向
週休3日（10時間勤務）として運用	夜勤明けが休日にカウントされているため、休日増加の体感は少ない	休日が増えること自体は好意的だが限定的
1日10時間勤務で運用	日勤帯の業務負担が高く、拘束時間が伸びたことで負担増の印象が高まった	日勤帯の業務内容・勤務時間の見直しが必要
夜勤時間を短縮 （20～21時入り、8～9時明け）	夜勤負担は軽減されたと評価	夜勤短縮は継続希望
休憩時間を最大2時間設定	2時間は長いので1時間で十分	拘束時間の短縮志向が強い
早番が朝・昼・夕の介助を一体で担当	精神的負担が大きいとの認識 プライベートの時間が取れない	早番の拘束時間は短縮が望ましい

3-2.モデル事業者における試行結果(特養陽だまりの丘)

手順5 本格導入に向けた準備

手順
5

本格導入
に向けた
準備

- 職員への意向調査
- 職員向け説明会の開催
- 地域に向けたPR(広報・採用の強化)

モデルシフトの試行から確認された課題

勤務時間設計

- 早番が朝・昼・夕の業務に連続的に関与する構造となっており、**早番の負担感が大きい**との意見
- 早番でも退勤が遅いことが**プライベートへの悪影響**

業務課題

- 食事介助（特に夕食帯）を含め、時間帯によって**業務負担に偏り**が生じている
- 記録業務の負担により、**日勤帯でまとまった記録時間の確保が難しい**
- 呼び出し対応等により、業務が中断される場面がある

打ち手の検討

勤務時間設計の見直し

- **早番の拘束時間短縮**（終業前倒し）および**業務の再配分**
- 一律**10時間**から可変的な**勤務体系への見直し**（早番**8時間**・夜勤**12時間**等）
- 夜勤短縮を前提としたシフト設計の継続化

業務の効率化（案）

- **夕食帯業務の再配分**（夜勤等への一部移行）
- **記録ソフト導入等による記録業務の効率化**
- **インカム導入による情報共有**・対応効率の向上が図れる

3-2.モデル事業者における試行結果(特養陽だまりの丘)

手順証 効果の確認

手順
6

本格導入と
効果の確認

- 就業規則等の改訂
- 週休3日制の本格導入
- KPI(導入後)の評価と今後の取組の検討

週休3日制の再試行および効果検証を実施し、

R8年度に本格導入の可否を判断する



評価できた点

夜勤時間の短縮により、身体的負担の軽減を確認



本格導入を見送る理由

日勤帯は食事介助・記録業務により業務不可が
高く、勤務時間延長で負担増が顕在化

次年度に向けたアクション

- ① 短時間夜勤の継続試行・検証
- ② ICT活用で記録・業務を効率化
- ③ 早番・夜勤の勤務時間を再調整し週休3日制へ